74新破天荒

令和四年度より
創刊
8
第2号

修学旅行終了！満足？不満？

７４回生の修学旅行が終わりました。波瀾万丈、前代未聞の修学旅行となりましたね。

保護者の皆様、本当にご心配をおかけしました。そんな中でも、どんと構えて下さり、旅行途中での緊急連絡電話への問い合わせ等もなく、生徒対応に集中できる修学旅行となりましたことを、深く感謝申し上げます。

ご家庭でも、すでにお話はあったと思いますが、見事なまでの珍道中の振り返りから今月号は始めましょう。

波乱の始まり

１月２３日火曜日午前７時１５分、ドラマの幕は開きました。やや緊張した面持ちの中にも、当たり前ですが、いつもとは違うにこやかな表情を前に、

Make Smiling

を心がけることを約束し、旅はスタートしました。見事な富士山を目にしながら、意気揚々、予定通りに東京駅日本橋口を通過。北陸新幹線東京駅に移動する頃には、大宮駅近辺での架線事故の内容が具体的に見え始め、ホームの駅員さんに「バスなら一度、バスに戻られても・・・」と言葉掛けをされました。

ホームの案内板には、利用予定の新幹線の番号が目に入っていましたが、すでにその前の新幹線の遅れが１時間以上。その時点で、午後の実習どころの話ではなく、

「まずは万座高原ホテルへの到着が先」

と、団長である校長先生の決断と、旅行社の素早い対応で、軽井沢で待ち受ける予定のバスを、東京駅からのホテル移動に利用できるように、尽力をして頂きました。

１日目の東京駅近辺散策はどうでしたか？急遽の大きな変更を決断頂いた団長には感謝します。お陰で最終日の日本橋口集合の適切、かつ、抜群の時間配分に繋がったのではと思います。

日本橋口から丸の内経由、八重洲口への移動中の素敵な出来事です。一瞬目の合った初老の外国人の男性からの一言、

Are you students's teacher ?

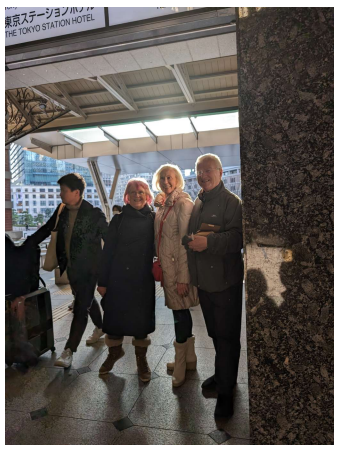
と、私には聞こえました。

ここからは会話の意訳です。

「素晴らしい。なんて整然とした集団の移動だ！感激した！

私はかつてスコットランドで教師をしていて、今は鎌倉に住んでいて、たまたま今日はここにいる」

今日からの修学旅行、東京駅でのハプニング、お声掛けへの感謝、この出会いを写真に残す、ブログでの紹介の許可をお願いしたところ、快諾だけではなく、わざわざ集団後方で丸の内出口まで、帯同をして下さり、左の写真とともに、お三方とも力強く素敵な、温かい握手とともにお別れしました。



このジェットコースターのような１日目も、４時過ぎにようやくホテルへ向かうバスに乗車を果たし、ついに１日目の落とし所が見え始めました。

急遽の変更にも関わらず、バスのドライバーさん達も、軽井沢以降の悪路にも、

安全　かつ　安心　かつ　迅速

に、チーム７４回生を、万座高原ホテルへと導いて下さいました。本当に感謝いたします。

午後９時を過ぎた到着にも関わらず、ホテルの前では、ホテルスタッフの皆様からの一言目が、

「大変でしたね。お待ちしていました」

１１時に迫る時間にも、皆さんへ献身的なサービスを遂行して下さる姿は、是非目に焼き付けておいてほしいと思います。

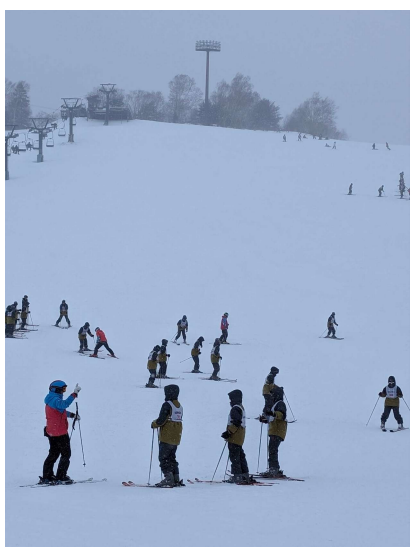
１日目の入浴のチャンス、スキー実習が確保してあげることができなかったこと、本当に申し訳ありません。でも、翌日からの活動の為に、消灯時間に辿り着けたのは、皆さんの行動意識のお陰です。

１月２４日水曜日、当初予定より３０分行動開始時間を遅らせてスタートしました。

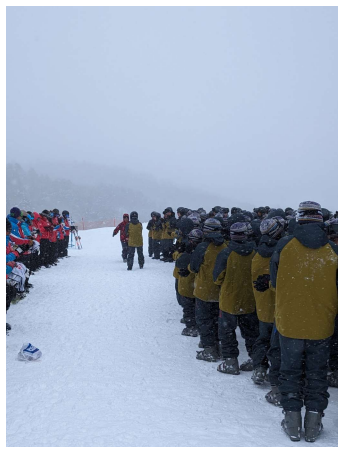
余裕を持ってスタートした分、油断があったかもしれません。午後には、多くの不調者が続出することとなりました。ただ、何よりスキー学校の方曰く

今シーズン最強の寒さ

今時の高校生は停止するたびにスマホ対応を必要と嘆く一方、厳しい実習条件であったにも関わらず、皆さんがこの機会を生かそうという真摯な実習態度に、インストラクターの皆さんもいたく感動して、いつも以上に熱を高めて、熱心な指導を頂きました。



確かにこの寒さ。心も体も折れるのも致し方ないとも、今となれば思います。１日目の分を取り返そうとしすぎたのかもしれませんね。



スキー実習開校式

悪条件の重なる中、体調管理に努めてくれていましたが、残念ながら離団せざるを得ない状況を生み出してしまいました。その事実を生み出したことは大変申し訳なく思います。

翌日も早朝から、荷物移動準備、早い朝食、長い移動があります。少しでも体を休めてもらえる空間を、各部屋で作ってもらえたらと思いました。

１月２５日木曜日、午前６時の起床とともに、夢の世界が開きました。スタート場所は、まだ極寒の万座高原ホテルでしたが、寒さなどお構いなし。身に着けている服装を見る限り、正直、夢の後の体調を心配、その時の対応をイメージしておかなければと思う一方で、夢は何をも打ち砕く力を持つのだ！と、若いエネルギーを感じました。

夢から覚める直前に、シェラトン・トーキョーベイホテルではこんなことがありました。皆さんの荷物搬入の際、ある生徒のバゲージについているオリジナルのネームタグを傷つけてしまったと、従業員、その上司の方が、生徒の帰りを約４０分程、ツアーデスクの横で待っておられました。さらに、チーフマネージャーとおぼしき上司が加わり、バゲージの持ち主である生徒への謝罪と、保護者への謝罪と対応にあたる準備をされていました。その後、その対応が終わった後、４Ｆのエレベータホールに再びお見えになり、改めて生徒さんにお詫びがしたい、許可を頂けるかと、頭を下げられました。

私は快諾した上で、こちらからもその部屋の他の生徒にも、よろしければその姿、場面を見せてもらえるだろうかと、お願いしました。その意図は、仕事に対する責任感、プライド、お客様への心からのもてなしの姿を、言葉ではなく、身を持って感じることができる絶好の機会である、ということをお伝えしたところ、「生徒さんにお役に立てるなら喜んで」と、お部屋に向かわれました。翌朝、当該生徒に話を聞きました。成果については、ここに記していることで想像して下さい。

夢から後、僅かな時間でしたが、室長会議、点呼と、３日間で一番、当たり前が為されたことに感謝します。

１月２６日金曜日、旅もようやく最終日。午前６時の起床と早朝の荷物積み込みと、大変慌ただしい朝でしたが、各研修先を目指して班活動が開始されました。

不調者が出た研修先は、引率者が手薄になる場所でしたが、残りの班員が緊急連絡、寄り添い、見守り、先生への引き継ぎを適切に行ってくれました。研修が十分でなかったことは残念かもしれませんが、ともに時間・空間を過ごせた仲間との強い関わりを感じることができたのは、それ以上の研修であったと思います。

各研修先での様子は、ここには載せ切れませんが、今しばらくは修学旅行のブログを通じて感じることができます。琴線に響いたことを大切に磨いていきましょう。

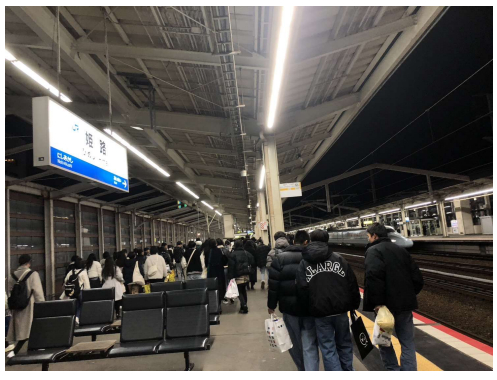
東京都庁（見下ろし↑・見上げ→ ）

スポーツ庁（現・前長官と共に）

外務省

研修を終えた後の最後のグループ活動はどうでしたか？不調を訴えた生徒の班も、適切なタイミングで全体の行動に大きな影響がなく、どの班も１日目のハプニングで活動したときの経験を生かして、活動を満喫してくれたのではと思います。

姫路帰着までの中で、いろんな場面がありましたが、各々が自分の為すべきことは果たしてくれて、無事姫路に帰着できたと思います。



さて月曜日。どれだけ、７４回生の当たり前の姿が迎えられたことでしょう。

この通信が配布される頃には、どんな顔で皆さんが学校で過ごしていることでしょう。

兎にも角にも、皆さんお疲れ様でした。

修学旅行を終えて
修学旅行委員長　古澤　世菜

私たち姫路南高校７４回生の修学旅行は、信州と東京方面へ３泊４日の旅行でした。

信州では、姫路では見ることができない一面の雪景色に感動し、スキーやスノーボード実習は、短い時間でしたが、インストラクターさんの的確な指導の下、スキーの楽しさや爽快感を実感しました。

東京方面での１日目は、東京ディズニーランド。２日目は、都内班別自主研修を行いました。

東京ディズニーランドでは、アトラクション体験や食事の時間、パレード鑑賞などを、閉園時間まで「夢の国」を満喫しました。

都内班別自主研修はそれぞれの研修先で、講師のお話に耳を傾け、施設を見学させていただくことで新たな発見や学びを感じることができました。

初日のハプニングを始め、急遽予定変更になったことに対して、７４回生全員が臨機応変に対応して時間通りの集合を成し遂げるなど、一人一人の協力がなければ、今回の修学旅行は成功しませんでした。

私自身は、修学旅行委員長として足りない部分もありましたが、修学旅行委員の皆さんが補ってくださり、安心して委員長を務めることができました。皆さん、本当にありがとうございました。

この修学旅行を、全員が安心・安全に過ごすことができたのは、校長先生をはじめ先生方や私たちの保護者、添乗員、ホテルのスタッフの方々、高原のインストラクターの皆様、私たちを安全に目的地に送り届けてくださったバスのドライバーさんなど、修学旅行に関わってくださった多くの方々の支えがあったからです。本当に感謝で一杯です。

普段ではできないような貴重な体験をたくさんすることができ、仲間のと絆もより一層深まりました。

大人になっても絶対に忘れることのない想い出となりました。

７４回生修学旅行委員の皆さん、
想い出をありがとう

1　組　近藤　志龍　　森中　博孝
2　組　福永　陸斗　　宮本　騎美生
3　組　鎌田　遊　　古澤　世菜（委員長）
4　組　前田　泰志　　牧本　紋佳
5　組　笹山　陽朱　　藤本　隆希

日本科学未来館

東京証券取引所

二月の予定

三・四日(土・日)　進研マーク模試
十一日(日)　建国記念の日
十二日(月)　振替休日
十三日(火)　大掃除(７限)
十四日(水)　特色選抜入試前日
十五日(木)　特色選抜入試
　　十四・十五日は生徒登校禁止
二十一～二十八日(水)～(水)
　　学年末考査
二十七日(火)　大掃除・式場準備
二十八日(水)　卒業式予行
二十九日(木)　卒業式

三月の予定

一　日(金)　大学ガイダンス
　　午前中授業(①②⑤⑥)
五　日(火)　球技大会
　　教育相談
七　日(木)　クリーンアップ作戦
八　日(金)　大掃除
　　成績不振者指導(保護者も)
十一日(月)　複数志願入試準備
十二日(火)　複数志願入試査
　　生徒は十一～十三日、十四日午前まで登校禁止
十五日(金)　合格体験発表
十八日(月)　防災避難訓練
十九日(火)　合格発表・教育相談
二十日(水)　春分の日
二十一日(木)　写真撮影・教科書販売
二十二日(金)　終業式

諦めの悪さ ホワイトボードより

1　月　9日（火）
明けたのは暦だけでなく　淀んでいた心
本気の想いを明けてほしいものです
自分の為にも

1　月　10日（水）
見ているだけで叶う夢などない
それで手にするものはただの偶然
夢とは　苦痛・悔しさ・見返しの先にある

1　月　11日（木）
何故楽しいと感じるか？
それはそう感じるための
前振り・計画・努力・達成感を
得る経過があるからだ

1　月　12日（金）
受け身と使役は　音にしても弱いし
自分を卑下しがち
やはり　能動での強さは
振り返るエネルギーも生み　自分を鍛える

1　月　15日（月）
人は何故あきらめきれないのか？
捨てる勇気が持てればと思うばかりです
思われる方も被害者なのでしょうね

1　月　16日（火）
「今」を乗り越えることの大切さ
「今」は目の前が最難関
乗り越えれば想い出に
そうでなければ後悔になる

1　月　17日（水）
当たり前は失って初めて
難しく　有り難いと気付く
積むのは大変なのに　人が積んでくれた
当たり前に気付けない
あると思うな　当たり前

1　月　18日（木）
「自分くらい」「少しくらい」
自分では一つ　学年では二〇〇
学校では六〇〇・・・　それに大人・・・
最低限のマナーは優先してほしい

1　月　19日（金）
本当の楽しみは　得たもの以上に
得るために　何を準備し　修正し　遂行して
何を得るかで決まる

1　月　22日（月）
明日からの修学旅行　　基本は集団・学びを
求めての旅行です
限られた中とは言え　その枠で満喫し
互いを認め合おう

1　月　29日（月）
頑張れ！とは言いません
踏ん張れ！！
再スタートを切りましょう

今月の・・・・の勧め

一　年
五　月　「無駄」
六　月　「諦めない」
七　月　「捨てる」
一学期末　「チャレンジ」
九　月　「さかのぼる」
十　月　「テレビ」
十一月　「大空間」
十二月　「無」
二学期末　「こだわり」
一　月　「信念」
二　月　「探る」
三　月　「自制する」
一年最終　「勇気を探す」

二　年
四　月　「悩むこと」
四　月　2　「本気でぶつかること」
五　月　「この世界の片隅を大切に」
六　月　「主体性」
七　月　「客観性」
一学期末　「ルーティーン」
九　月　「スマホとの向き合い方」
十　月　「詩に触れる」
十一月　「破壊する」
十二月　「想いを再生する」
2学期末　「夢を目に触れるようにする」
一　月　「アナログ」
二　月　「きっかけ」

７４回生として、一番大きな行事を終えました。自分を変える「きっかけ」を見落としていませんか？何がきっかけになるのかは分かりませんが、何かを感じるセンスがなければ、きっかけなど一生出会うことはない。
いよいよ、ほんとに3年生零学期です。腹をくくる勇気を持とう。

散歩道７４

クラスコード 5luczkw

Start 23 → 2022 last　36
2023 start 38　→ Now 52
2ndGrade start 52
→　Now　57